

犯罪被害者の心理と援助についての調査研究

平成10年度社会安全研究財団調査研究報告書

平成11年3月

被害者心理研究会

【被害者心理研究会の会員は、以下の通りである】

☆※山上 皓

東京医科歯科大学難治疾患研究所教授 犯罪被害者相談室代表

※* 穴田富美子

東京医科歯科大学犯罪被害者相談室

岡田幸之

東京医科歯科大学難治疾患研究所犯罪精神医学分野助手

安藤久美子

東京医科歯科大学大学院医学系研究科院生

大山みち子

東京医科歯科大学犯罪被害者相談室

* 木村弓子

東京医科歯科大学犯罪被害者相談室

* 白井明美

東京医科歯科大学犯罪被害者相談室

* 野田美和

東京医科歯科大学難治疾患研究所犯罪精神医学分野

及川和代

東京医科歯科大学難治疾患研究所犯罪精神医学分野

☆研究代表者 ※報告書執筆者 * 電話聞き取り担当者

はじめに

山上 皓

本報告書は、被害者心理研究会が、財団法人社会安全研究財団の委託によって行った、「犯罪被害者の心理に関する調査研究」の結果をまとめたものである。

本研究の主な目的は、犯罪被害にあつて間もない時点での、被害者のおかれている状況と、被害者の援助へのニーズを正しくとらえ、今後、被害者支援策の充実を図る上で優先的に検討すべき課題を明らかにすることにある。

本研究会は、警視庁の協力を得、59名の被害者を対象に、本人または家族より事前に了承を得た上で、電話による聞き取り調査を試みたが、了承後の事情の変化などもあつて、回答が得られたのは51名となった。

本研究報告は、研究会会員が直接電話をかけ、事情聴取した結果を整理、分析したものである。事件後間もない時点での、被害者の実態を、とくにその心理面を中心に明らかにしたものとして、この領域における数少ない貴重な資料となるものと思われる。

本研究によって、犯罪被害者が事件後にさまざまなストレスにさらされること、二次被害がしばしば医療の場や、捜査、あるいは裁判の場で生じていることが、被害者の具体的陳述の中で明らかにされた。

被害者に見られる心理的反応を、被害体験の別で比較してみると、罪種の如何を問わず共通してみられる反応の他に、被害体験の種類によって特徴的な反応が見られること、事件後に被るストレスも、被害体験の別によって様相が異なることなどが明らかにされた。

電話による聞き取り調査は、事前に了承を得ていた被害者に対してのみ行われたが、それでも、調査時点では応じたくない、触れられたくないとする被害者も少なからず見られ、揺れ動く被害者の心理と、接触の持ち方の難しさを、あらためて知る結果となった。

それでも、多くの方々のご協力を得て、ここに研究成果を公表できることを感謝したい。

本報告が、今後の我が国における被害者支援のあり方の検討に、幾分でも寄与することが出来れば幸いである。

平成11年3月

目 次

調査概要と方法	1
調査結果	3
I. 回答者の属性	3
1 被害者との関係	3
2 被害分類	3
3 性別	3
4 年齢	4
5 職業	5
6 電話聞き取り一覧	6
II. 電話・面接による聞き取りの実施	8
III. 被害類型別聞き取り調査結果	9
1 殺人の被害者遺族	9
1) 事件の衝撃と、心理的反応	9
2) 医療現場での対応について	11
3) 警察の対応について	11
4) 裁判について	13
5) 加害者に対する気持	14
6) 現在（調査時）の状況について	15
2 性犯罪の被害者	17
1) 事件の衝撃と、心理的反応	17
2) 医療現場での対応について	19
3) 警察の対応について	20
4) 裁判について（電話聴取）	22
5) 加害者に対する気持	24
6) 現在（調査時）の状況について	24
7) その他	26

3	傷害の被害者	27
1)	事件の衝撃と、心理的反応	27
2)	医療現場での対応について	28
3)	警察の対応について	28
4)	裁判および加害者について	29
5)	現在の状況について	30
6)	面接調査	30
4	交通事故被害者・家族	33
1)	事件の衝撃と、心理的反応	33
2)	医療現場での対応について	34
3)	警察の対応について	34
4)	加害者・裁判所について	37
5)	現在の状況について	38
IV.	調査結果の要約	40
1)	聞き取り調査について	40
2)	事件の影響	41
3)	医療現場での対応	42
4)	警察の対応	42
5)	裁判・加害者	43
6)	周囲の対応	43

調査概要と方法

1. 本報告書は、被害者心理研究会が、財団法人社会安全研究財団の委託によって行われた「犯罪被害者の心理に関する調査研究」の結果をまとめたものである。

2. 本研究の主な目的は、犯罪被害にあって間もない時点での、被害者のおかれている状況と、被害者の援助へのニーズを正しくとらえ、今後、被害者支援策の充実を図る上で優先的に検討すべき課題を明らかにすることにある。

3. 本研究会は、警視庁の協力を得て、事件後間もない時点での犯罪被害者へ電話による事情聴取を行い、その聴取結果をまとめたものである。

4. 犯罪被害者・遺族への電話による聞き取り調査の概要

1) 調査対象

調査対象とされたのは以下の2群の犯罪被害者（被害者遺族を含む）である。

① 平成10年5月1日から同年9月30日までの5か月間に警視庁管内で認知した

下記の事件の被害者と家族

ア. 殺人・傷害致死・強盗致死・強盗強姦致死・強制猥褻等致死事件の遺族

イ. 殺人未遂・強盗致傷（未遂）・強盗強姦（未遂）・強姦（未遂）・強制猥褻（未遂）・準強姦（未遂）・準強制猥褻（未遂）・強制猥褻等致傷・全治1か月以上の傷害事件の被害者

ウ. 上記のア. イ. 以外の事件で、結果的加重犯として致死または全治1か月以上の致傷の結果を生じた事件の被害者または遺族

エ. ひき逃げ事件の被害者または遺族

オ. 交通死亡事故の遺族

② 警視庁管内で発生した事件による犯罪被害者等給付金の受給者で、平成7年1月1日から平成9年12月31日の間に、犯罪被害者等給付金に係る公安委員会の裁定を受けた者

2) 調査期間

電話での聞き取り調査は、平成10年7月から概ね平成10年12月末までである。

3) 聞き取り調査数

聞き取り調査実施数は51件で、罪種別と本人、家族の内訳は次表の通りである。

電話聞き取り応答数

	本人	家族	計
傷害	7		7
性被害	15	3	18
交通事故	5	11	16
殺人		10	10
計	27	24	51

なお、電話による聞き取り調査を行った51例中、面接を希望した2例には、面接調査を行った。

5. 本報告書は、会員によって分担執筆されたものを、研究代表者がとりまとめたものである。

調査結果

I. 回答者の属性

1. 被害者との関係

今回の調査は、指定期間内に東京都下の警察で取り扱われた事件の犯罪被害者と、過去の殺人事件における遺族の一部を対象としたものである。被害者が極めて重傷を負っている場合や未成年である場合には、被害者本人に代わって家族が回答したケースもある。回答数は51名であった。被害者本人から応答を得られたのは27（52.9%）、家族から回答を得たのは24（47.1%）であった。

被害者本人	27
家族	24
配偶者	7
子供	7
親	7
その他	3
合計	51

2. 被害分類

回答者の被害内容を「傷害」「性被害」「交通事故」「殺人」の4つに分類した。

傷害の場合は全員が本人による回答であり（7名）、性被害の場合もほぼ全員が本人による回答である（18件中15）。交通事故の場合は遺族（9名）と家族（2名）と本人（5名）による回答が得られた。なお、この被害分類は回答者が任意に選択したものであり、司法機関による分類とは異なっている。

3. 性別

応答者名の性別は男性14名（27.5%）、女性37名（72.5%）であった。各性別を被害別にまとめてみると、女性では「性被害」が18名と最も多く、男性では「交通事故」が6名「傷害」による被害者が5名であった。

被害分類と性別

回答者		殺人	性被害	傷害	交通事故	計
本人	男性			5	3	8
	女性		15	2	2	19
	計		15	7	5	27
家族	男性	3			3	6
	女性	7	3		8	15
	計	10	3		11	24
計		10	18	7	16	51

4. 年齢

回答者の年齢の分布を年齢層別で見ると、性被害と傷害では若年者が多く、特に性被害では全員が10代及び20代の女性で占められた。これに対し、殺人や交通事故では回答者は若年者から高齢者まで、幅広い年代に分布している。

	殺人		性被害		傷害		交通事故	
	男	女	男	女	男	女	男	女
10代	0	0	0	8	0	0	0	0
20代	0	0	0	10	3	2	1	1
30代	0	1	0	0	1	0	1	1
40代	0	0	0	0	0	0	2	3
50代	1	4	0	0	0	0	2	2
60代	1	1	0	0	1	0	0	2
70代	1	1	0	0	0	0	0	1
合計	3	7	0	18	5	2	6	10
	10		18		7		16	

5. 職業

回答者 51 名のうち、常勤の職に就いていた者は 19 名 (37.2%)、パート・アルバイトなどの職に就いていた者は 8 名 (15.7%)、学生は 11 名 (21.6%)、家事従事者は 4 名 (7.8%) であった。詳細を以下に示す。

	人数	%
会社員	15	29.4
公務員	2	3.9
パート・アルバイト	8	15.7
自営業	2	3.9
家事	4	7.8
学生	11	21.6
無職	7	13.8
その他	2	3.9
合計	51	100.0

6. 電話聞き取り一覧

電話聞き取りの対象者の一覧は次表の通りである。

被害者			被害	事件の概要	回答者			
50代	男性	自営業	殺人	ナイフで刺された	妻	50代	女性	その他
60代	男性	会社役員	殺人	刀で切られ出血多量	妻	60代	女性	家事
20代	男性	会社員	殺人	通勤途中包丁で刺された	母親	50代	女性	パート
20代	女性	店員	殺人	隣人の男にナイフで婚約者と共に刺された	父親	50代	男性	会社員
50代	男性	求職中	殺人	酒を飲まされ暴行、放置、内蔵破裂による出血死	妻	50代	女性	公務員
60代	女性	無職	殺人	帰宅したところハンマーで殴打。頭蓋骨折、お金を盗られた	妹	70代	女性	無職
30代	女性	会社員	殺人	電車を待っていた時、飛び込みの道連れにされた	父親	70代	男性	無職
50代	女性	無職	殺人	勤務先で早朝、賊に侵入され殺害	兄	60代	男性	無職
40代	男性	自営業	殺人	放火され夫が焼死、本人と従業員が火傷で入院	妻	50代	女性	自営業
70代	男性	自営業	殺人	自店で店番をしていたところ殺害。物品数点と現金を奪われた	娘	30代	女性	会社員
20代	女性	その他	性被害	性被害	本人			
10代	女性	学生	性被害	電車の中で痴漢	本人			
20代	女性	学生	性被害	電車の中で下着の中に手を入れられ、陰部を触られた	本人			
20代	女性	会社員	性被害	屋内に連れ込まれ、襲われそうになった	本人			
10代	女性	学生	性被害	電車の中で下着に手を入れ、下着を降ろして触ってきた	本人			
20代	女性	会社員	性被害	自宅に男が侵入。口をふさぎいたずらしようとした。声を出し、暴れて追い払った	本人			
10代	女性	学生	性被害	エレベーターの中で体を触られた	本人			
20代	女性	会社員	性被害	自宅に男が侵入。性交行為を強要	本人			
20代	女性	学生	性被害	食事に誘われた時、意識不明になり、気が付くと病院にいた。財布から現金が抜かれていた	本人			
10代	女性	学生	性被害	目を覚ましたら部屋に男がいて強姦されそうになった	本人			
20代	女性	パート	性被害	電車の中で体を触られた	本人			
20代	女性	無職	性被害	強姦	本人			
10代	女性	学生	性被害	下着の中に手を入れられ揉まれた	本人			
10代	女性	学生	性被害	モデルをしないかとビル内に連れ込まれ、写真をとられたり、触られた	本人			
20代	女性	会社員	性被害	診療と言われていたずら	本人			
20代	女性	学生	性被害	レイプ	本人			

被害者			被害	事件の概要	回答者			
10代	女性	学生	性被害	レイプされそうになった	本人			
10代	女性	パート	性被害	強制猥褻	本人			
20代	女性	無職	傷害	仕事先に強盗。頭を何度も強打された	本人			
30代	男性	会社員	傷害	傷害	本人			
60代	男性	会社員	傷害	タクシー料金の踏み倒し、暴行傷害、強盗	本人			
20代	男性	学生	傷害	知り合いと酒を飲んだ後、暴行を受け歯を折る	本人			
20代	女性	会社員	傷害	いきなり口の中にタオルを入れて殺すと言われた	本人			
20代	男性	パート	傷害	コンビニエンスストアで勤務中、傘で頭を何度も強打	本人			
20代	男性	会社員	傷害	暴力団員数人に殴る蹴るの暴力を受け、失明同様	本人			
30代	男性	会社員	交通事故	会社から帰る途中、自転車に乗っていて車にひき逃げ	本人			
50代	女性	家事	交通事故	横断歩道上で足を踏まれた	本人			
40代	男性	運転手	交通事故	ひき逃げ	本人			
20代	女性	パート	交通事故	自転車で仕事帰りの途中自動車にひき逃げ	本人			
50代	男性	運転手	交通事故	赤信号で停車中追突される	本人			
20代	男性	会社員	交通事故	後から乗用車にひき逃げ	母親	50代	女性	自営業
40代	男性	無職	交通事故	道路を横断中トラックにひき逃げ	母親	70代	女性	無職
0代	男性	小学生	交通事故	横断歩道上でダンプカーにひき逃げ	父親	20代	男性	会社員
60代	男性	会社員	交通事故	自宅前でオートバイにはねられ死亡	母親	60代	女性	家事
40代	男性	会社員	交通事故	自転車で帰宅途中、乗用車に	母親	40代	女性	パート
70代	男性	無職	交通事故	買い物帰り道路をわたろうとして	娘	40代	女性	家事
50代	男性	タクシー運転手	交通事故	理由は不明だが道に倒れていたのをひき逃げされて死亡	弟	40代	男性	パート
70代	男性	無職	交通事故	自転車で買い物に行く途中、住宅地の道路で車に衝突	息子	50代	男性	無職
60代	男性	無職	交通事故	ひき逃げされ死亡	妻	60代	女性	公務員
10代	女性	学生	交通事故	自転車で下校途中、わき見運転の車に追突されて即死	母親	40代	女性	パート
70代	女性	会社員	交通事故	自転車で青信号の横断歩道上で車にひかれて死亡。アクセルとブレーキをまちがえたらしい	娘	30代	女性	会社員

II. 電話・面接による聞き取りの実施

電話では、現在の状況、被害時の警察や医療機関、周囲の対応についてやその他被害後の影響などについて自由に話してもらった。

通話時間は個人差があり、最長で70分、話したくないという場合は謝辞のみ伝えたので1分程度で終了した。

電話聴取に際しては、次のような点に留意した。

- ・調査協力の謝辞
- ・話したいこと、相談したいことはないか聞くことで、サポートのきっかけとする。
- ・「犯罪被害者相談室」の案内。

すなわち、調査のためだけではなく、自分からは相談に来にくい被害者へこちらから支援に向けてのアプローチをすることも心がけた。

電話での聞き取り調査の後、さらに面接を希望した対象者2名に対し、面接調査を行った。調査者は研究会会員2名で行い、時間はおおむね2時間程度であった。